













セント・ヘレンズ1980年の山体崩壊















































































| 大規模な山体崩壊や岩屑なだれ |
|--|
| 大規模な山体崩壊は、これまで数多くの火山、特にテイサ イト火山で発生している。 |
| 主な素因: 火山活動に伴い急峻で不安定な火山体が形成。 |
| 軟弱な滑り面の形成。数cm~数10mの溶岩と火砕物(岩) の層 |
| 主な誘因:高粘性マグマの上昇:セントヘレンズ(1980) |
| 群発地震(+火山活動):雲仙眉山(1792) |
| 水蒸気爆発(+火山活動):磐梯山(1888) |
| |
| 火山活動の休止後も不安定な火山体や堆積物のために |
| もうく崩れやすいため、崩壊、土石流などが頻発する。 |
| |







































































































































ハザードマップ全体図 富士はが得たした場合に、漫習点、得石、大裕茂な どの裏球かよんが石積せる「は園舎」すべて巻め えかいたらのである。(ここに最合わているすべ での風俗、同時に角輝にならわけではない) 空本 何次ためのたまながたたまたいであっ ってくれたてきるないたれまたいであ。 (資料提供:冨士山ハザートマップ特別提供会)

火山灰の割塗装範囲 水山原や和石を田す大用な切入の場合に、肉灰が あよう観測: 人の豊くかしためでため。大切大 によって増きたした火山灰山、上空の発展に消した で貫着想用のに水気に除すす。なお、水 で展出きかかちため、火山灰の利益発展したら、 この回は、すべての参加を書かまたかにためです。 る. (資料提供:雪士山バザードマップ特計算音)



